

# 十和田市事務事業評価シート

担当課名	下水道課
------	------

## 【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	9	整理番号	33
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」		
施策の展開方向	生活環境の整備		
事務事業名	下水道の整備		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	十和田市下水道条例、十和田市下水道整備基本計画
関連する事務事業			

## 【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	14	13	13
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	122,472	113,724	113,724
正職員以外	従事者数(人)	2.5	2	2
	活動日数(日)	222	222	222
パートタイマー	人件費(千円)	2,165	1,732	1,732

## 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	1,301,932	1,004,138	890,800
うち一般財源			4,890
うち国県支出金	564,511	429,251	372,500
うち地方債	691,400	538,600	485,500
うちその他	46,021	36,287	27,910

## 【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	市内全市民及び全戸数
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	市内全戸を水洗化する。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	公共下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽整備事業を補助事業により実施する。

## 【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	水洗化率				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	水洗化人口/人口	%	68.7	69.6	72.0	
	活動指標名					
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	水洗化率				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	水洗化人口/人口	%	目標値		72.0	72.0
			実績値	68.7	69.6	
			達成度(%)		96.7%	
成果指標名						
計算式等	単位	21年度	22年度	23年度		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	33
計画No	9

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由						
<b>妥当性</b>	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行うものとなっている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。		下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行うものとなっている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4										
下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。												
下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行うものとなっている。												
	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2								
<b>有効性</b>	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。		浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。	
	成果向上の余地	1 / 6										
	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。											
浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。												
	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2								
	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1								
<b>効率性</b>	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、これ以上のコスト削減は困難である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、これ以上のコスト削減は困難である。			
	コスト削減の余地	0 / 6										
	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、これ以上のコスト削減は困難である。											
	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2								
	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2								
<b>公平性</b>	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">整備をした市民から受益者負担金をいただいているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	整備をした市民から受益者負担金をいただいているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。			
	受益者負担適正化の余地	1 / 4										
整備をした市民から受益者負担金をいただいているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。												
	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1								
<b>現在の適性</b>					18 / 20	<b>改善の余地</b>	2 / 20					

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

**有効性を改善して継続**

方向性の理由

公共下水道事業は、計画に基づいて継続する。  
浄化槽整備事業については、生活環境の改善には必要な事業であり、PFI事業の問題点を検討し今後も普及推進したい。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

浄化槽整備事業については、PFI事業の特別目的会社の業務改善、市の支援等を検討し、水洗化率の向上を目指す。